

# 学生フォーミュラ開幕

## 県勢3チーム、上位狙う

小笠山運動公園

の革新性や生産コストを問う静的審査やコースでのベストタイムや旋回性能を競う動的審査なども実施予定。  
(掛川支局・吉田史弥)



車検に臨む静岡大チーム  
14日午後、袋井市の小笠山総合運動公園

学生が製作を手掛けるフォーミュラカーの性能を競う「第16回全日本学生フォーミュラ大会」(自動車技術会主催、静岡新聞社・静岡放送後援)が4日、袋井、掛川両市にまたがる小笠山総合運動公園で開幕した。本県から静岡大と静岡理工大、静岡工科大学が出場し、上位入賞を目指す。

国内外の98チームが1日、エントリーした。8日、昨年、ICV部門でまでの5日間でICV 12位の上位成績を収めた静岡大のチームリーダー(ガソリン自動車)のター村上達亮さん(20)は「電気自動車」の2部門に分かれて審査は「昨年のマシンの良い所を残して改良し、初日は自動車メーカーの技術者らが審査員を務めて、車両の安全性やブレーキの効き具合など100項目以上を確認する車検が行われた。5日以降、デザイン